

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「まごころ家族のように」を理念として掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常時目に付く事務所も柱やラウンジに掲げ介護にいかすよう努めている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ラウンジに掲示しご家族様や来訪者すべての方の目に付くように考慮している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>両隣は空き地であるので付き合いはないが町内の商店やご家族等にお会いした際は挨拶をしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>年に数回ではあるが町内会や老人会の行事に誘われ参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームの入居者の支援だけで精一杯の状態である。</p>	○	<p>現在は職員の知識と介護力の向上を優先し確実なホームの基盤ができてから地域高齢者の支援にも目を向けて生きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>前回外部評価の際指摘された内容を全体会議やユニット会議で検討し改善している。便所内にあるむき出しにしてあった洗剤棚を扉のあるものに変更するなど行う。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>現在運営推進会議を発足準備の段階でまだ受理されていないので会議は開催されていない。</p>	○	早急に開催できるように施設長が行政等と打合せ手続きを行っている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>施設長がたえず役場の福祉課に行き来し案件がある場合は情報を提供し指導を受けている。また情報の交換を行い質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>必要な入居者ご家族様に情報を提供した。自分で勉強し知識は備えているが介護員への周知はしていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>自分が研修で学んだことや書籍を読んで身につけた知識を内部研修や日常の業務の場で介護員に指導している。言葉による虐待や玄関の施錠、ベット柵の設置基準など必要ならば個人指導を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時に時間をいただき十分な説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者とは密な関係を築きどんな小さい不満や苦情でも常に把握し改善できるように指導はしている。</p>	○	<p>どんなに小さな不満でも苦情と受け止め外部者にも把握できるようにラウンジなど外部者にも見える場所に掲載する必要があるので早急に検討実施にむけ対処する。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>ご家族様が面会に来た際健康状態を伝えている。金銭管理は出納帳のコピーとレシートの現物を毎月の請求書に同封し郵送している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様とは密な関係を築きどんな小さい不満や苦情でも常に把握し改善できるように指導はしている。外部者に掲載するまでにはいたらない。</p>	○	<p>どんなに小さな不満でも苦情と受け止め外部者にも把握できるようにラウンジなど外部者にも見える場所に掲載する必要があるので早急に検討実施にむけ対処する。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議やユニット会議で常時意見を聞く機会を設け日常業務に反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要ならば受診や入居時の職員増員など利用者に合わせた勤務体制をとっている。</p>	○	<p>現在職員が不足しており十分な休息ができないままの勤務状況であるので早急に介護員の確保をしている状況である。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>合同行事やユニット会議時の応援業務など常に両ユニット行き来し入居者とかを馴染みの関係を築けるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 でいき たい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>毎月の内部研修や主任・副主任による介護員の個別指導の実施、外部研修に積極的に参加し研修記録を作成発表する場を設けるなど職員育成には積極的に取り組んでいる。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>近隣のグループホームへ見学に行ったり、介護認定会の親睦会に積極的に参加し近隣施設の状況など意見を交換する機会を作っている。</p>	○	今年度中に管理者が近隣グループホームを訪問し見学研修の基盤を作り来年度から毎月一人ずつのペースで研修する機会を設ける予定である。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>施設長・管理者は3ヶ月に一度ほど介護員の意見を聞く機会を設けたり全員参加の親睦会を行っている。また喫煙室と休憩室を設け十分休めるような配慮はしている。</p>	○	運営者に求めるのではなくいち社会人として自分なりのストレス軽減法を見極め実行するべきである。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>自分で勉強したい内容の研修への参加を認めたり、実績を考慮し昇給するなど配慮している。</p>	○	運営者に与えられた課題をこなすのではなく自分で開いている時間を作り勉強したり、積極的に研修への参加を打診するなど意欲を現すべきである。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>去年までは相談から利用にあたり本人に会う機会が非常に少なく一度会えたら良いくらいで相談と同時に入居になるケースもあり本人からの情報は得られる状況ではなかったが、現在は入居前一ヶ月くらいは週3回くらい日中に遊びに来ていただき本人と会話する機会を積極的に設け本人の意図していることを理解するよう努めている。</p>	○	本人やご家族、職員のよりよい信頼関係を築くためには今後も続けて生きたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談と同時に密に連絡を取り、本人が困っていると思われることご家族様が困っていることなど話し合いを行い少しでもたくさんのご家族の思いを受け入れられるように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時まず一番問題としている内容を把握し本人だけではなくご家族も納得のいくサービスの紹介やグループホームでの生活の現状を伝えている。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>去年までは相談から利用にあたり本人に会う機会が非常に少なく一度会えたら良いくらいで相談と同時に入居になるケースもあり本人からの情報は得られる状況ではなかったが、現在は入居前一ヶ月くらいは週3回くらい日中に遊びに来ていただき本人と会話する機会を積極的に設け本人の意図していることを理解するよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>悩みを相談したり自宅での出来事や楽しかったことつらかった事を話すなど、喜怒哀楽をともし職員と入居者の関係を維持しつつも家族に近い関係を構築するよう努めている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者の健康状態、精神状態を連絡相談することでともに入居者の力となるよう努めている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。</p>	<p>行事への参加の声かけや差し支えない程度にご家族と入居者の間に入りより良い関係が築けるような対応はしている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	<p>外出好きの入居者に毎日散歩やドライブの支援をしたり、育った街へでかけたり文化祭や祭りの参加など支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の関係性を職員全員が理解していることで個々にあった対応ができている。中間で行動したい人、一人好きな方など見極め全員が情報を共有することで支援が可能となっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在このような案件はないが必要ならばそれに応じ継続的な関係を大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	半年に一度のアセスメント調査と毎月のモニタリングを参考に個々にあった暮らしを常時考え介護にあたっている。毎日の入居者との交流を一番に考え個々の思いを把握し職員全員が情報を共有することで希望や意向を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	MDSやセンター方式を活用し個々の入居者の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録をつけ全員が目を通すことで毎日の状態は把握している。センター方式の活用で入居者の全体像を把握するようにしている。	○	センター方式の記入は勉強した介護員もいるがすべての介護員がやったわけではなく、また記入しただけでシートの意義や必要性を理解している状態ではないので来年度からは内部研修時に職員全員が理解し記入できるような体制作りをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	初期プランのみ計画作成担当者が作りあとは毎月のモニタリング結果と必要ならばご家族との話し合いで本人、介護員、ご家族の意見に反映した介護計画を作るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間内に変化が生じた際には計画作成担当者がケアプランの見直し変更を行いすぐに職員全員に周知実施している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌、介護記録、行事報告や事故報告書を記入することで入居者個々の状態を共有し介護に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出外泊時の送迎や入居前の継続した訪問など要望に応じ対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向ではないが大規模な消防訓練を職員入居者合同で実施した。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在その必要のある入居者はいない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在その必要のある入居者はいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の看護師には健康管理などの相談にのってもらっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	全員ではないが必要ある入居者には認知症専門医へ受診支援をしている。また精神状態が悪化した際その都度医師に相談し適した治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	42と同じ。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の様子や病状を担当看護師に直接聞き情報を得たり、ホームでの状態を看護師に説明し情報交換に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医や家族に相談しながら終末期の過ごし方を話し合っているがまだホームとしての方針が定まっている状態ではない。	○	今後ターミナルケアの説明やご家族様への意思の確認等のマニュアルを作成し書式化した上で全員に周知し一丸となって取り組んで生きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	毎月のモニタリングで状態の把握はできている。今後の変化に備えての準備が明確化されていない。	○	今後ターミナルケアの説明やご家族様への意思の確認等のマニュアルを作成し書式化した上で全員に周知し一丸となって取り組んで生きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族や関係者から十分に話し合い情報交換することでダメージを軽減している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>確実ではないが徹底するよう指導はしている。</p>	○	<p>自分の気付かないうちに言葉かけや対応が職員本位で介護にあたってしまっているので内部研修等を利用し各自に指導を徹底したい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定の支援は十分に行えている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>50と同じ。</p>	○	<p>自分の気付かないうちに言葉かけや対応が職員本位で介護にあたってしまっているので内部研修等を利用し各自に指導を徹底したい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人やご家族の希望を聞き送迎を行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者と一緒に調理や片付けなどがほぼ毎日できている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の好みに合わせ喫煙や飲酒等の対応はしている。また一緒にオヤツを買いに行き選んでもらう等の支援もしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを見極めトイレ誘導や声かけを行い排泄に関して不快感を与えないように支援している。紙パンツ、紙おむつは使用せずに使い慣れた布パンツにパットを併用し適時にトイレ誘導することで快適に過ごしていただいている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は入浴を強く希望する入居者が居らず週2日曜日を決めて声かけを行い拒否者には後日入りたい日に提供している。希望者には朝や夜間浴を提供している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時は寄り添うことで安心して眠りにつけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を活かしお金の計算や農作業、魚のおろしなどの声かけをし一緒に行うことで楽しみを支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	「私はお金を持っていないから」と言う入居者からの言葉がよく聞かれる。買い物時は入居者に財布を渡し支払をしていただき確認のみ職員が行うよう指導する。	○	ご家族からの預かり金が金庫にあることを本人に伝え安心してもらう必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望者には付き添い散歩やドライブ、買い物など毎日支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	全入居者による一泊旅行や温泉好きな入居者へは毎月個別で温泉を楽しむ、外食好きな入居者に外での食事を一緒に楽しむなど適時支援はできている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙、電話の援助は適時行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問はできているように思われる。	○	職員の挨拶態度や対応で訪問者の気分が左右されると思われるので個別に指導を行っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在確実に行えておりできていない時はその都度徹底して指導を行っている。	○	すべての職員が把握はしておらず勉強不足であるので自分で勉強する必要があるのと内部研修等で教える。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	現在確実に行えておりできていない時はその都度徹底して指導を行っている。	○	介護員が理解しているかは定かではないが勉強する場は設けており周知はしている。現在日中は7:00~20:00まで開錠しており夜間は安全確保のために暗号式ではなくすぐに開けれる鍵を使用し施錠している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	帰宅願望者の確認は所在確認表にチェックすることでめれないように、全入居者夜間は2時間ごとの巡回必要ならば30分おきの巡回を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫用具やはさみなど希望者には本人所持していただき針やはさみの本数を定期的に確認するなどの管理をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修を利用し実技演習や知識の向上を行っている。また外部研修にも積極的に参加し知識を身につけている。	○	教えてもらうことで身につけるのではなく自分で積極的に学ぶ姿勢が大切と思われる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的ではないが必要時指導はしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	関係機関と密に連絡を取り働きかけを行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様と話し合いを持つことで本人の満足を一番に考えた生活を提供している。リスクの危険性を説明することで事故後の対応がスムーズに行えている。	○	介護裁判等騒がれる中普段からのご家族との信頼ある関係作りが大切と思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	介護員が発見し迅速に管理者・主任に報告し処置対応を指示している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	大まかな把握はしているがすべての副作用を理解しているわけではない。	○	今後の介護に役立てるためにはできるだけ早い段階で薬の目的や副作用を覚える必要がある。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	野菜ジュースや牛乳を促す、運動の声かけ腹部マッサージなど予防対応はしているものの一定の入居者には下剤に頼っているのが現状である。	○	毎朝牛乳を飲むなどマニュアル化し実践し排便状況をモニタリングする必要がある。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後だけ全員に声かけはしているが朝・昼は一定の入居者のみ行っている状況である。	○	毎食後自分でできる身体能力はあっても拒否するものや声かけが必要な方への支援が必要である。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量はバイタル表に記入し健康状態により水分量を確保制限している。栄養士がいるわけではないので確実に栄養バランスが整っているわけではないが必要ある入居者には管理栄養士の指導を受けている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	マニュアルがファイリングされすべての職員がいつでも閲覧できるよう対応している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所用品は每晚塩素系漂白剤で除菌を行っている。食材の管理は厳しく指導しており賞味消費期限が一日でも過ぎた食材は破棄する、調理時間は90分とし食材を常温で保管する時間を短くし食中毒を予防するように指導している。	○	調理用具の除菌はおこなっておらずマニュアル化し実行する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>春夏には花壇を設置し親しみやすい雰囲気作りをしたり、冬は雪かきをいつでも出入りできる玄関にしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>現在共有空間についての不満の声は上がっておらず、職員は季節感あふれる飾りつけをしたり工夫をしている。</p>	○	ポスター作りや製作物など職員のみで行うのではなく入居者を交えて行うことでいっそう季節の認識ができ認知機能向上にもつながる。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>テレビ前や大窓付近、ラウンジ内や食堂にソファを設置し各自好きな場所で過ごしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>入居前に説明し使い慣れた家具や寝具を搬入し本人が少しでも居心地良い空間をつくるように工夫している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>室温が26℃～28℃と非常に高く昼と夜では気温の差が著しいため温度管理が十分にできていない状況である。また湿度が20%前後と異常にひくく空気が乾燥しており風邪や皮膚疾患の原因となっている。換気に関しては24時間自動空調を使用している。</p>	○	温度については基の温度切り替え担当者が季節に応じ切り替えることとし介護員は各ユニットで温度調整し常時24℃前後に保てるように調整する。湿度はこまめに霧吹きをかける、フロア内に緑を置くことで保湿する、または各居室には濡れタオルを置くなど工夫する必要がある。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>フロア内やトイレ、風呂場の適所にハンドレール、クラブバーを設置し自力歩行の手助けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレや風呂場に表札を出すだけでなく暖簾をたらすなど雰囲気からわかる空間作りを工夫している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>広い中庭を活かし夏には入居者が休憩がてら職員見守りのもと喫煙したり、花火大会や焼肉パーティーなど外回りを利用した活動を行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	レ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 レ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	レ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
		○ すべてのご家族に定期的には会えるわけではないのでご家族の真意をつかめているかは分からないが、訪問時には積極的に話しかけ少しでも信頼関係を築けるように努めてはいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ㊚④全くいない	○ 近日中に実施する予定である。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ㊚③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	○ 職員同士の性格や意見の違い、仕事の手順の違いなどから不和な時もあるが話し合いを重ね少しづつではあるが改善の兆しが見えている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	㊚①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	㊚①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)